

## 目次

俳句教室が始まりました  
くしゃみをした裸観さん  
大庭での暮らし

矢野彰教 2  
新戸雅章 5  
賀来宏之 6

### ●メンバーの広場

ネズちゃんと私 パート13／句会に通って

桂 奈美

俳句

小山美保

食べ物専科5

葉山 仁

柴田品子の世界⑩

柴田品子

皆さん！（下）

岡本桂太

精神科病棟日誌シリーズ⑨背広

小野智司

西岡主題歌シリーズ「西岡といつまでも」

西岡 勲

木戸愛楽 五〇年間生きて来て

木戸哀楽

### インユートピックス

20

イラスト・絵画・写真

ネコ魔人先生／高橋大和／柴田品子／小山美穂／

堀慶賛／遠藤美幸／瀬戸聡子／子安瞳

表紙絵画―桂 奈美

## インユー俳句教室が始まりました

代表 矢野彰教

十月のプログラムに俳句教室が加まりました。

俳句は言葉を五七五と三つ並べ、その内一つに季節を感じさせる季語を入れ、「や」「けり」「かな」などの助詞を付けると俳句らしくなります。このルールに従って作ると俳句という芸術作品が生まれるのです。

前にもインユー俳句を試みましたが、なかなか続きませんでした。しかし皆で表現して発表する場があることは大事だと思い再度挑戦します。

ところで私が最初に俳句を始めたきっかけは、藤沢第2ひまわり作業所に勤務していた頃で、近くの藤沢公民館の俳句教室です。もう三十五年も前の話です。

そのころの第2ひまわり作業所は、現在とは別の場所で、遊行寺の裏の坂の途中にありました。「憩いの家」的な作業所で、よく裏山の公園へ散歩に皆を連れ出しました。そこに真っ赤な大きな椿の花が、ぽとりと音がするように地面に鮮やかに落ちていました。それを見た少年のような二十歳くらいのT君が、「悲しくなっちゃう」と泣きそうに言いました。

いじめられっ子 おちこばき 落ち椿見て泣いて居り

精神の病気になる前に、学校でいじめを受けていたと話すメンバーさんが多いので、「いじめられっ子」としました。それにしても本当に彼は優しくて繊細なんだと、まだこの仕事に就いて間もない私は思いました。

当時境川の自転車道路を通勤していて、こんな俳句も生まれました。

風となり光となりて冬 ふゆすすき 芒

そこを五年間努めた後、独立して作業所を立ち上げました。「喫茶ポトピ」と言い、私の俳句が名前の由来です。

水音のポトピポトピの夜長かな

私は二十歳まで神奈川県足柄上郡山北町に住んでいました。藤沢に越してから空き家は残っていて時々帰りました。家の裏に小川が流れ、その向こうは鬱蒼とした森がありました。深夜に木造の古い家にいると、何か森から聞こえてくるような気がします。風呂場の方からか、小川の方からか、水滴か何かが落ちる音が聞こえてきます。

ふざけて書いたような俳句なので俳句の会で誰も選んでくれないだろうと思っていましたが、恩師の北澤瑞史先生が誉めて下さいました。自分で自分の俳句の善し悪しは分からないものです。

この頃、作業所を立ち上げる計画が始まり、「喫茶ポトピ」を名前にし、その運営母体の会もNPO法人ポトピとしました。

山北でできた俳句をもう一句、静岡県との県境の大野山の頂上から、眼下の足柄平野を見ながら坂を下って行くとき、夕方、町の明かりがひとつ、またひとつ灯るの見て。

行く秋や 灯<sup>ともしび</sup>一つ 灯<sup>ともしび</sup>りけり

次の俳句も当たり前すぎて誰も選んでくれないだろうと思っていたのを、北澤先生が選び、さらに「俳壇抄451誌」に掲載になりました。自分ではつぶやくように、何も考えないで作った俳句です。難しく凝らないで、素直に、ちよつとした心の動きや日常の出来事を五七五に表せばいいのだと分かりました。

春めくや海に向かいて歩きだす

もう一句好きな自選の俳句を紹介します。

パントマイム目<sup>なみた</sup>あけ 泪<sup>なみた</sup>の五月かな

1993年から「遊行福祉まつり」を始めました。民生委員の高科さんを始め西富町内の皆さま、遊行寺、藤沢ボランティア講座卒業生の皆さまらの協力で始まり、ほぼ毎年開催し第二七回まで続けました。

当時何度かステージにMMTパントマイムのやまさわたけみつさんがピエロ姿で出演して下さいました。フランスでパントマイムの修行をされ、鎌倉を拠点に活動しております。

ピエロの顔は笑っているのか泣いているのか不思議な表情でペーソスがあります。

私の高校時代は軽い鬱で、間違えて理科系を選んでしまったこともあって、毎年成績が学年で百番ずつ落ち、体調を崩し、脾臓炎と診断され食事制限され、一時期は息をするのも苦しいような辛い時期がありました。それを誰にも言えず一見元氣そうに振る舞っていて、心と顔の表情が不一致で。だからピエロの微笑みにはとても複雑な思いがあります。

次に十月に始まったインユー俳句教室の様子をお伝えします。

まず、「俳聖かるた」取りで準備運動。芭蕉、蕪村、一茶、去来などの江戸時代の有名な俳人のかかるたです。次に

## エッセイ

私の師匠の北澤瑞史先生等の編集の「入門歳時記」から季語を選び紹介。そして思い思いに書いてもらいます。それを私が添削します。五七五の中の一つだけを違う言葉にするだけで、また「や、けり、なり」などの助詞をつけるだけで、順番を変えるだけで俳句らしくなります。

十月二十日の俳句教室より。

虫が泣き夜な夜な更けるホームかな  
柿美味しいインユーランチに腹抱え

千佳

千佳

夜長来て眠れないわと友こぼし  
もろこしに歯がたをつけて食いにけり  
ちちろ虫鳴きて人生語りけり

美穂

美穂

美穂

芒野や歩道の側に語りけり  
江の島に花火見えると声を聞く

豊

豊

冬前に半ズボンはき寒さかな

よしひろ

エッフェル塔 心地よい風パリの秋

勲

ドラム弾くタケオの姿 秋深し

(皆でメンバーのタケオさんへ)

草の花すべて煙草に見えにけり

(煙草を止められないH君へ) 彰教

杖を捨て茅畑の中へ入りにけり

(杖が無くて歩けるよ)

彰教

十一月十七日の俳句教室より

お土産の蜜柑の和菓子 茶飲みにけり  
名月が雲に隠れて悲しかな

豊 豊

ループルの宝を盗むサンタかな?

シャンゼリゼ ツリーが眩しい年の暮れ

勲 勲

荒らしてやろう案山子に止る鴉かな  
日向ぼっこ車いすにて休みけり

S S

小銭貯め 節を味合う年の暮れ  
Xマスツリーに電飾 松に雪

美穂 美穂

## クシヤミをした裸観さん

新戸雅章

「健康法っていえば、昔、ハダカ健康法なんというのもありましたよね。ほら、あの、いつもハダカのおじいさん。全身の皮膚を顔にすれば、冬でも寒くないっていう…」

「ああ、及川裸観さんでしょ」

「そうそう、そのおじいさん。でも、よく名前を覚えていますね」

「いや、あの、昔うちに来たことあるからさ」

あれは今から二〇年ほど前の冬の午後こと、私は子供の頃から利用していた近所の床屋さんに散髪に出かけた。話好きのご主人から、最近、乾布摩擦を始めて、体調がよくなったなどという話を聞いているうち、若い頃、テレビでよく見たおじいさんのことを思い出していた。

その小柄なおじいさんは、つるつる頭に上半身ハダカ、下は半ズボンといういで立ち。手には「全身顔にせよ」と書かれた旗をもって登場する。そして、笑顔をたやさずにこう主張するのだった。

顔の皮膚は冬でもむき出しだが、少しも寒くない。だから全身を顔にすれば、一年中ハダカでも平気である。ハダカですごせば、風邪も引かずに健康になれる。カッ、カッ、カッ……。このハダカ健康法を広めるために、その姿で全国行脚しているとのことだった。

そう、あのお爺さん、たしかに裸観さんといったつけ。

ご主人の話によれば、ある冬の日、ハダカのおじいさんがふらりと入店してきた。最初、この寒空になんて驚いたが、すぐにテレビでよく見る裸観さんだと気づいた。

「どうしますか？」

「ここをやって…」

ちよこんと椅子に座った裸観さんにたずねると、頭を剃ってくれという。この人たしかつるつるだったよなと思いがながら見れば、てっぺんに綿毛のような毛がもやもやと生えている。これが、よしと、要望通り丁寧に剃り上げてあげた。

剃っている間、裸漢さんは例の調子でハダカ生活の利点などをとうとうと論じていたが、剃り終わると「ハクシヨーン！」ひとつ大きなクシヤミをした。そして、

「うー、寒い」と言ったという。

「ほんとに？」

「ほんとですよ。全身を顔にすれば寒くないと言ってたのにねえ」

ご主人の話を聞いて私はこう思った。ひよつとすると、そのわずかな髪の毛が、裸観さんの服だったのではない。冬でも裸で平気だったのはそのおかげだったのではない。ところが、それを失ったとたん、現実の寒さが急に身に染みてきた。それで、思わずクシヤミが出たのではないかと。

私は、人体の秘密を垣間見たような、不思議な気持ちで店をあとにしたのだった。

※「ある発明家の病理」はお休みします。

## 大庭での暮らし

賀来宏之

2006～2023年と、藤沢市内の精神科のグループホームで暮らしていましたが、2023年の1月に父が他界し、2023年の5月に大庭へ戻って来ました。

湘南大庭地区は、藤沢市内でも高齢化が進んでいる地域で、昔と比べるとよりいっそう、ゆつくりとした街になっていました。

バスの中で、高齢の方が、もつとたいへんな方に席を譲る光景も、たまに見ます。かつてわたしの強烈なトラウマになった大庭中学の水泳部も消滅し、スーパ―銭湯もコソスも消えて、夏になると図書館ではお年寄りたちが新聞を広げながら涼をとり（大庭図書館には、サイゼリヤが隣接しているので、よけいに過ごし易いのです）、またイオンの木陰の広場では、10時くらい？ 9時くらい？ から皆さんでラジオ体操をされています。

ゆつくりとした街……わたしは、大学生の最後の学年で鬱になるまで、向上、向上、前進前進で頑張つて来ました。が、心の病になり精神科に入院し、1997年の1月に一回目の退院をして自宅に戻りましたが、それからグループ

ホームに移る2006年までは実に惨憺たる、悲惨な暮らしでした。父も母も、落胆していたことと思います。賀来家の「黒歴史」でした。

心の病は、確かに「人の尊厳が傷つけられる」ことで発症するところがあると思います。尊厳が失われると、本当に生きることが自体がしんどくなり、それからさらに周囲との関係性が崩れてしまい、悪循環になります。

大庭での暮らし：朝はNHKの「おはよう日本」の天気予報の気象予報士・近藤奈央さんのスマイルに癒やされます。リスパダールよりも、ワイパックスよりも、近藤奈央さんの天気予報は心の深い癒しになります。

また、涼しい時期は大庭霊園のウォーキングです。イオンで買ったハンバーガーやカレーパンを、霊園の管理事務所で食べ、微糖の缶コーヒーを飲んでエネルギー補給し、霊園の外周を歩きます。若い頃に6周という記録がありましたが、50代になつてからは5周が自己ベストです。

週末には、キリンビールで孤独な祝杯をあげます。ドリトスのナチョチーズ味をつまみながら、キリンビールの一番搾りを味わいます。

## エッセイ

また、ひと月に一度は訪問看護のい田さんが来訪し、愚痴に耳をかたむけていただき、ひと月分の毒がなくなり、浄化されます。

もちろん、インユーの折り紙教室もあります。自分が通所している作業所も、アートやキリスト教との関わりもあり、自分が様々な関係性の中で生かされ、生きているのが分かります。

もちろん、関係性の中でストレスが溜まり、その共同体のなかにいらなくなることもあります。ひとときの引きこもりで回復し、またこの世界に出て行くことも出来ます。

昨年末、20年ぶりに高校の部活の友人たちと再会しました。（それまでは「一生、会うこともない」と勝手に思い込んでいたのですが）14時〜江ノ島散歩で18時から藤沢で飲み会でした。

皆で、江ノ島から夕陽を見ました。（とても美しかったです…）



わたしは、23歳から合計6回精神科に入院し、6年間を精神科病院で過ごし、父も母ももうおらず、家庭も仕事もなく、今でも統合失調症という病気です。けれども「人生は基本的には良いもの」だと感じます。

かなり昔、「障がい者は不幸しかつけない」と言っていたくさんの人びとのいのちを奪った人がいましたが、それはその人たちのそれまでの物語や夢、希望、日常的な幸せ、関係性などすべてを否定し、暴力的に破壊することです。

しかし、それでも「この世界は基本的には良いもので、人生も基本的には良いもの」と信じて生きてゆく権利はあり、それを暴力的に破壊する権利は誰にもない。

これからも、大庭での暮らしは続きます。ゆつくりとした街のゆつくりとした暮らし…

そろそろ、天気予報を観ようと思います。

## メンバーの広場

### ネズちゃんと私 パート13

桂 奈美

ネズはもう大きくなつて（歳が）十歳になりました。人間で言う四十歳くらいです。

身体はそのままの大きさですが、何かと大人びて来て面白いで

す。ネズに「月の砂漠」の唄を歌って聞かせると喜んでいきます。「月へ行こうね」とお互い言い合っているの、私とネズのテーマソングです。ネズも覚えて「月の砂漠を」と大声を張り上げて歌うのですが、すごいオンチです。私が、「まだまだ」とネズを押さえて「月の砂漠」を歌うとネズはうっとり聞いています。

「ネズ愛しているよ」「奈美愛しているよ」と言つてキスするのは日常茶飯事。夜、ネズは私の隣でスヤスヤ寝てい



:

ます。最近はいつもハートのミサンガと、弟の干支の年のキーホルダー結婚指輪をして、おしゃべりしています。「ネズ」と起こすと、フアーツとあくびをして起きてきます。相変わらず可愛い顔でキョトンと見られたら、もったまりません。

ネズはいい旦那です。可愛い子供たちに囲まれて幸福な一家です。

「ネズ、月へ行こうね。一緒にね」

### 句会に通つて

桂 奈美

ここ何年前から、藤沢市の「みちくさ」俳句会に参加し、俳句の腕を磨いている。

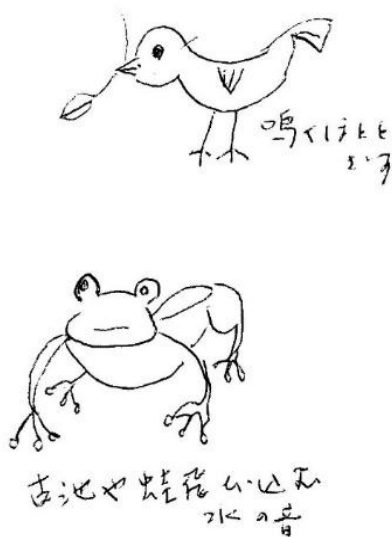
中には、私以外に障がい者の方がいて、シルバーカーで大変な思いをしてやってくる。彼はリーダーで、句会の諸事を一手に引き受けている。

私もこの何年前から、彼を手伝うようになって会計を受け持っている。

句会も西野先生から山田先生に、教えてくれる先生が変わり、会場も「藤沢公民館」から「労働会館」に変わり、今は「藤沢市民活動推進センター」に落ち着いている。



## メンバーの広場



皆、忙しい中、月一回の句会に五句、句を作ってきて、切磋琢磨している。

私も最近、同メンバーの一人から「うまくなったね」とおほめの言葉を頂いた。

新しいメンバーも入会したり、いつも通っていて思うことは、真面目でなくては駄目ということ。私も句会に参加しているお陰で、「文芸藤沢」「神奈川現代俳句協会」「公民館まつり」「みちくさ合同句集」等、活躍の場が広がり、楽しみも増えた。もう一つ「かるがも」という句会にも参加したいと思っている。私の人生に大きな支えが生まれた昨今である。

## 俳句

小山美保

水遊びアヒルの子らがもぐりけり  
花粉つきカサブランカが鼻の上  
あんみつのみつよりあんが甘きかな  
飛びこみてプールの底が膝につき  
夏至来たる暑さに浸たり顔ぬぐい  
水仙の葉が二ラに似て毒ありき  
祭来る人が集うは踊りの輪  
薄暑来て早もや半袖若人ら  
さくらんぼ添えて美しくサンドイッチ  
苺食べ練乳の中泳ぎけり  
羽拔鳥水辺に写り哀れかな

## 食べ物専科 4

葉山 仁

### ●野菜と野菜ジュース

春は野菜サラダの季節、野菜サラダと言えば野菜ジュース。野菜食べていますか？ そう、野菜ジュースでよいのだ。トマトジュースが安く売っている。Amazon。

Amazonではないものがないという感じで大概のものは手に入る。あのサラサラトマトジュース、美味い。秦野にいたときはイオンで買って水代わりに飲んでた。そうなのだ、いまは野菜ジュースをスーパーで買えばコーラより安いのだ。今月も残りのお金があと少し、頑張つて行きましょう。

### ●カップ麺

ついに小生もカップ麺デビューですね。この歳で3度の食事は多すぎる。でも腹は減る。そんな時はカップ麺がちょうどいい。昨今ではカップ麺も200円を超える値段だ、おいそれと



は手が出ない。それでも安いカップ麺を常備。ここ最近の小生の食生活である。

### ●ワンカップとまんじゅう

今年も桜の季節も終わり、新年度の儀式はみんな終わった。まあ春と言えばお彼岸なのだよ我々は。今年の彼岸も墓参りに行っていない。そういえば、藤沢に戻ったとたん死んだ親父

が夢に出てきたんだけど、申し訳ないのだけども墓参りに行く金がない。おふくろに言えばある時に来いというだろう。ただ、うちの墓参りにはいつもワンカップとまんじゅうをお供えする親父とおふくろの分。そうだな今はいかれないな。近くて遠い実家なり。が、やっぱり気になつてちゃんと行って来ました。今年はワンカップ2本とまんじゅう2個なり。



●不二家のケーキ

最近、甘いものを食べに不二家に行っているさすがにケーキの食べ放題は食べないのだけれど、毎日何事もなく暇な日々を送っていると自分にたまにご褒美をやっていないことに気が付いた。やはり自分へのご褒美は食べるものがよいね。服とか機械ものとかはどうも褒美にありついた気がしないからな。しかし、ケーキ一つ700円。ファミレスに行くのに一回千円では行かない世知辛い世の中になったものだ。この物価高生保のほっも上がってほしいものだ。頼みます。自民党。岸田さん。

●カップ麺2

カップ麺も昨今では種類が豊富になった。というのはこの間ある方からカップ麺の差し入れを頂いた、それは韓国の焼きそばみたいなものから定番のカップヌードル、はたまたビーフンまで多種多様なカップ麺の数々があつた。ちよつとしたお宝を頂いた気分だった。嬉しく美味しく頂いた。韓国のやつはなかなか不思議な味で美味かつたな。ありがとうございます。

●アイスクリーム

暑い、兎に角暑い。この夏は毎日30度越えの暑さが続いているこんな日はコンビニの箱のアイスが食べたくなる。最近は食品、日用品の日々の値上がりの中でかなりお金の使い出がないそんなコンビニの箱のアイスは6本入りで260円貧乏人の見方であるアイスクリームなんて子供の食べ物なんてこともないので、体を冷やすにはもってこいでひと箱で足りないくらいである。(今は315円)

●冷凍食品

最近の食事のおかずは、また冷凍食品を買っている。ちよつと前までは松屋の牛丼を取っていたけど最近はコロッケやハンバーグとんかつなどの冷凍食品を買った。毎日のことだから安くて美味しいものを食いたい。そんな時は冷凍食品が本当に便利なのだ。しかし、来月は松屋の牛丼を取ろうと思う。松屋の牛丼は本当においしい、そして、便利だ。

以上23年夏



柴田品子の世界⑩

詩

時の移り

さびしき水色に  
この葉の揺れる  
闇に向かひたる時  
清し――

哀<sup>かな</sup>しき青に  
鳥のさえずり  
凜<sup>れい</sup>としたやすらぎ  
ただ味わう――

わびしき藍に  
ひとり酒  
心うるおい  
闇深し――深し――



俳句

透明な夏<sup>なつ</sup>夕<sup>ゆふ</sup>焼<sup>やけ</sup>凜<sup>りん</sup>然<sup>ぜん</sup>と

夏の陽に洗濯物を二度三度  
長き極暑止みて一息台風か  
草むしり暑さ響かず一心に  
長き炎暑秋はいつ来る謎めいて  
真黒に日焼けて仕事家が建つ  
夏の日に水色の小花こんもりと

川柳

上がる上がる今年の気温と米の値よ  
着たい服あれどもむなし腹が出る  
夢の中不思議な出来事疑問なく  
出る言葉暑い〜オー暑い  
猛暑中三杯食べたよかき氷  
老ひて悲し痛いよ痛い神経痛  
極暑中エアコン扇風機フル回転  
コンチクシヨー冷蔵庫壊れ後始末  
老眼鏡かけて鏡見んなんてババア  
夏なれど落ちぬ食欲けなや

## メンバーの広場

皆さん(下)——岡本桂太

好きな言葉

岡本さゆり☆妻☆(♯>.>♯)♪

怒らないこと☆(♯>.>♯)♪

紫の手編みのセーター☆(♯>.>♯)♪

緑の手編みのセーター☆♪

紫色☆♪

奇跡☆

幸せ☆いっぱい☆♪

ハート

心

ピュア

ハーブティー

花

バラ☆♪

楽しい

嬉しい

キラキラ☆♪

人助け

あいさつ☆

ありがとう(し)

人間☆夢を持つことが大事です。

原因があるから☆結果がある。

原因なくして☆結果はない☆♪

能ある鷹は爪を隠す☆♪

世の中☆上には上がいる☆♪

嘘も方便☆♪

人の振り見て我が振りなおせ☆♪

親しき仲にも礼儀あり

礼は礼で返す☆

自分らしく生きる事☆♪

思いつき

発想の転換

ヒラメキ☆♪

ま☆いつか☆♪

て言うか☆♪

家族

親

妹弟☆♪

恋愛

女性

純情

人情

謙虚

素直☆♪

信じる☆♪

優しさ

思いやり

人の気持ちって大切だね☆♪

待つ事☆♪

我慢する事☆

しつこくしない事☆

強引過ぎない事☆

## メンバーの広場

勇気☆♪  
懺悔  
謝る事☆♪  
ごめんなさいm(\_ \_)m  
失敗は成功のもと  
どんなに裏切られても☆許す心を持つとう☆♪  
許す事も愛です☆♪  
今が不幸なら☆次は幸福が待っている☆♪  
後悔するなら☆やめておけ☆♪  
でも☆後悔するならやった方がいいです。  
人の意見より☆自分の意思で動け☆  
気づく  
依存☆♪  
愛着  
笑顔☆(＃>\_>＃)♪  
元氣☆♪  
悲しみ  
憂い  
感謝  
豊かな心☆♪  
癒し  
最後まであきらめない。  
人と人との間に距離を持つとう。  
人間関係  
人間☆一人じゃ生きれない☆♪  
頼る  
神様☆♪  
音楽  
歌を歌う

ダンス  
テレビ  
縁  
絆  
友達  
親友  
彼女  
人に花を持たそう。  
受け入れる☆♪  
責任  
自信  
コミュニケーション  
明るい  
楽しい☆♪  
DISCO☆  
思い出☆♪  
今☆♪  
勉強  
頑張る  
努力  
最後まで見捨てない☆♪  
人には、誰にもいい所がある。  
心理学  
哲学  
論理的  
成功  
ちよつと肩の荷をおろすと楽になる☆シ  
成るようにしかない☆♪  
安心感

## メンバーの広場

リフレッシュ  
安らぎ  
リラックス  
気分転換  
大丈夫☆  
太陽  
坐禅  
ヨーガ  
運動☆  
安眠  
信頼感  
孤独  
自立  
マナー  
プライバシー  
どん底に落ちたら☆後ははい上がるだけ。  
世の中なるようにしかない☆♪  
裏切り者は絶対に許さない!!!!  
親孝行  
ブライド  
光と影  
矛盾の原理  
絶対はありえない。  
嘘は必ずバレる。  
生きる  
命

世の中☆無意味なものはない。  
人間☆あきらめた時点で終わる。  
道徳  
モラル  
カクテル☆♪(カシスオレンジ)  
自分を愛する事☆♪  
過去は振り返るな☆前進あるのみ☆♪  
過去は変えられないけれど☆未来は希望に満ち溢れている  
☆♪  
理屈じゃないんだよね☆♪  
去るものは追わず。  
別れる事も愛です。  
天才詐欺師神☆だまされる  
方が悪い(@\_@)  
恋愛の別れて振った人も振られた人もどちらも傷付くと思っけど、僕は振られた人の方が何倍も辛いと信じた  
い!!  
失恋って辛いね☆(N△N)♪  
でも☆恋って☆素晴らしいよね☆o(△△)o♪  
最後に☆皆さん☆♪  
ありがとう☆(#^\_^#)♪

短篇小説―精神科病棟日誌シリーズ⑦

背広

小野智司

「菊池さん、いつもそんなちゃんとした背広を着ていて、窮屈じゃありませんか？　ここは病棟なんだし、まあ昼間は寝間着といたかないまでも、もっと楽な格好をしていればいいじゃないですか？」ごく正常で常識をわきまえている菊池さんに、私はいつも尋ねる。

「いやあ、これが落ち着くんでね」菊池さんは微笑を浮かべて応える。

「それにしても、菊池さんは鬱病の人のように「空しい」とか「落ち込む」とか言わないし躁病の人みたいに五月蠅く騒がないし、癲癇の発作もないし、統合失調の人たちみたいに妄想とか幻聴もないみたいだし、いったいどこが病気で精神科に入院してるんですか？」

「いやあ、家庭の都合でね。知らないうちに親と民間移送業者のせいでここに入れられてしまったんだよ。親たちの小言には慣れていたけど、ある日ユニフォームを着た奴らがうちに来て、まあちよっとカウンセリングをするだけだからって、けっこう腕を掴んだり強引に車に乗せられて、

この病院に運ばれてきて、あれよあれよという間に入院させられて、もう何年になるかなあ」

精神科の入院には、警察など行政権力による強制的な措置入院と、親族など後見人のOKがないと退院できない悪名高き医療保護入院と、それから自由に入退院できる任意入院という三つのパターンがある。菊池さんの場合は勿論、医療保護入院である。

ある時、面接室で、彼が両親と面談しているのを見かけたことがある。両親は小声でなにかねちねちと彼に小言をいつているらしく、内容は聴きとれなかったが、彼は厳しい表情をして黙っていた。私は彼の家庭の事情など詳しく知らないが、彼の対応の様子は極めてまともで、両親、特に父親の方が何だか血走った目でねちねちと彼を非難しているように見受けられた。私が察するに、両親と彼が三人で同居していて両親が二人とも精神的におかしい場合、それでも医者や家族間の多数決で正常な彼を病者に仕立て上げて強制的に入院させているのではないか、と思うのである。世の中には民間移送業者という商売があつて、制服を着た業者が半ば力づくで患者を拘束し、精神科に入れ込む場合がある、ということも誰かから聞いて私は知っていた。私は、病気なのは彼の両親の方なのだ、と内心ほぼ断定していた。

菊池さんは本を読んでいることが多い。それも、思想書や科学文献など、比較的高度な内容のものが多く、私と



も話が合う。彼は自分の職業のことも語らないが、大学関係の学者ではないかと私は推察していた。しかし、入院に至る経緯に話題の水を向けても、どうもはつきりとはしない。健常というか無実の彼が、恐らく家庭内の多数決で入院の憂き目にあっているという事実には、私は軽い憤りさえ覚えていた次第である。

ところが、ある日、私はとんでもないものを見てしまった。

病室のロッカーを検査するということで、看護婦さんたちが各部屋を回っていたとき、私はたまたま菊池さんの部屋の入口付近にいた。菊池さんのプライバシーに興味のある私は、菊池さんのベッドの正面にあるロッカーを看護婦さんたちが調べるのを入り口から覗き込んでいた。すると、看護婦さんがロッカーを鍵をはずして開けた途端、何百何十という毎日朝食に出される紙パックの牛乳がどつと転がり出てきたのである。一張羅の背広のほかに洋服はほとんどなく、中に積み上げられた本の脇や上や、ロッカー内の空間は牛乳パックがうす高く積みつきみあげられていて、それが外に溢れでてきたわけである。それにしても、これだけ毎日の牛乳を溜め込むとは、本数から言っても数年分に渡るはずであり、当然、大半は腐っていて飲めないうばかりか、不衛生でもある。彼の病気はこれだったのだ。これも私の推察だが、こういう性癖のある学者肌の場合は、恐らく、実家でも本やその他のものが捨てられず、家

じゅうに彼の蒐集物が溢れ返っていたのではないか。そして彼の両親は耐えきれず、彼をついに強制入院させて家じゅうの整理をしたのではないか。

しかし、それにしても、背広を着た健常きわまりない菊池さんが病気だとしても、その菊池さんののせいで両親も一種の病気を抱え込む羽目に陥ったのではないか、とも私は推察する。それほど菊池さんはきちんとした紳士だったからである。統合失調など、精神病というものは大方、「関係の病」なのであって、健常か病気かは相対的なものだと思ふ。

世の中には、ポスドクと呼ばれる学位をもった高学歴のニートが実家でぶらぶらしているケースが多い。彼もそうした人種の一人なのだろうか。

検査の後、私は菊池さんに尋ねた。

「牛乳嫌いなんですか？」

「いや、好きだから、もったいなくてとっておいたんだよ」

「じゃあ、なんで飲んでしまわなかったんですか？」

「朝食養を摂り過ぎると、日中の調子がいまいちだね」

「じゃあ夜飲めば？」

「いや夜にはもう牛乳は腐りかけてるから」

「じゃあ、なんでそんなものを取っておくんですか？」

「まあ、記念というか、色褪せた病院生活の彩りというか、生きている証というか、どちらかというと思想的な意味合いだね」

「はあ」

「最近はずがにスペースがなくなって来たんで、毎朝一個足しては一個捨てることにしているんだ」

菊池さんが病気というほどでないにしても、こういう人間との共同生活はやはりかなりな無理が生じることだろう。彼の家庭内での多数決には、やはりご両親のほうに分がありそうだった。

フロイトの学説で、リビドーと呼ばれる生命エネルギーが発達段階の肛門性愛期に固着している人間は蒐集壁が強い傾向があるらしい。しかし、菊池さんは決してホモセクシャルではなさそうだ。

いつものように、菊池さんはパリッとした背広姿で、静かに物理学の本を読んでいる。



西岡主題歌シリーズ

♪ 西岡といつまでも ♪

西岡 勲

一寂しいヤツは ついてこい  
聞かせてやるぜ 男の唄を  
なんだその顔 元氣出せ  
夢が欲しけりゃ でっかい声で  
歌ってごらん かわいい娘

二あの娘は一人だけじゃない  
わかったやつはグラスを空ける  
オレはきらいさ 泣き虫は  
右も左も 後ろも前も  
ごらんよ恋の 花盛り



木戸愛楽 五〇年間生きて来て

木戸愛楽

(第一編)

私の今迄の人生は、すさまじいものがあつた。私は一三歳でこの病を発症し、一五歳で当時三大悪徳病院と言われたF H病院に医療保護入院となり、入院しました。それで初めは手足を腰ひもで拘束されて、それで、もつと最悪なのが、その後おむつを当てられ、大きい透明の点滴を一本。それが終了すれば、黄色の点滴をもう一本。合計二本やらされました。ものすごく嫌でした。そんなのは、その後の入院でもばんたびありました。：

その時一五歳だつた私は点滴を打つ時、とある女性看護師さんにこう言いました。「わあ、おむつ嬉しい!!」って。ね、おかしいでしょ私？

……だから障害等級一級の身でもおかしくないのですよ！ ま、五〇年間とは書きましたが、Ah疲れた、この辺でよろしいですか？ すみません。(つづく)

(第二編)

こんにちわ！ 皆様!! この私哀楽は、今でもなんとか生きています。……まあ、それではこの間の続きでも書き、お伝えいたしますか。

まず私は、F H病院にあれから一〇回以上も入退院を繰り返しました。でもそれが、前半は苦でもなく、ほのぼの楽しい毎日を送っていたのです。その訳は院長である。今は亡きS先生や看護士さん、患者さんがとても個性的で、やさしかったからです。当時一五歳で、中でも一番若かった私を、みんな可愛がってくれたのです。それでは、また今度(第三編)をお書きし、お伝えいたしますので、今回はこのへんで。ご愛読どうもありがとうございます。(つづく)

(第三編)

皆様！ どうもお久しぶりです！ 哀楽はこの頃、しゃかりき元気に、表にばかり出ていて毎日を楽しんでいます。

私、木戸哀楽はこの歳になり、ようやく生きがいを見つけ、満足した一日一日を過ごしております。十代、二十代、三十代、四十代は地獄でした。でも今は矢野さんや皆様達のおかげで、毎日が最高です。みんな大好き！ 木の花もインユーも最高ですね！

まあ私こういう性格だから、皆様方にご迷惑ばかりかける時も多いのですが、それでも皆様達は決して私を責めてきたりはしません。ですから本当に私は今恵まれていて、本当に幸せなのです。皆様本当にどうも有難うございます！ 以上。(つづく)

# インユートピックス

藤沢市展に柴田品子さんと堀慶賀さんが出展

二〇二五年六月に藤沢市民ギャラリーで開催された藤沢市展に、メンバーの柴田品子さんと堀慶賀さんが絵画作品を出展しました。（裏表紙の裏に写真掲載）

柴田さんの作品はメンバーをモデルにした肖像画の力作。モデルを知る人たちから、よく特徴をとらえていると絶賛されました。堀さんの作品はゴッホの自画像の模写。ユニークな色使いで、単なる模写を超えた作品に仕上がっていました。

横須賀ソレイユの丘に福祉バス旅行

二月一三日（土）、神奈川県福祉バスを利用して、横須賀ソレイユの丘に行きました。相模湾と富士を一望する広大な敷地にアスレチック、キャンプ、ジップライン、観覧車、崖地のボードウォーク、ジェットコースター、レストラン、土産売り場などが点在する一大アミューズメントパークです。

当日は晴れましたが、空気が冷たく、野外での活動には不向きな



天候でした。でも、午後には少し暖かくなったので、皆で園内を散策して楽しみました。

英会話教室始まる

クラブハウス・インユートのプログラムにこのほど英会話教室が加わりました。講師は書道教室も手がけるボランティアの井上ゆみ子先生です

二月一〇日（水）に開かれた第一回教室には、たくさんの方々が参加。実践的な英会話を楽しく学びました。



## 編集後記

インユートにはメンバーが楽しめるプログラムが数多くありますが、この秋からはさらに自由俳句、茶道教室、英会話の三つが追加されました。自由俳句はインユート代表矢野彰教によるもので、本誌巻頭のエッセイにその内容が紹介されています。茶道教室は調理を担当する陶芸家の山本渉が受け持っています。英会話はボランティアの井上ゆみ子さんが講師です。多くのメンバーの参加が期待されます。

(し)